

# 弥生人、ゴミ棄てすぎ！

## ②図書館改修工事に伴う発掘調査

### 調査の概要

○調査地：吉田キャンパス図書館北東隅空地

○調査面積：172 m<sup>2</sup>

○調査期間：平成24年9月20日～11月14日

### 調査の経緯

吉田キャンパス図書館北東隅空地において、図書館の増築工事が計画されました。当該地は図書館2号館の東に隣接しますが、図書館1号館は本学の埋蔵文化財保護体制が整う前の建設であったため、地下の様相は明らかになっていませんが、図書館2号館敷地においては柱穴・土壌・溝・自然河川とともに弥生時代から江戸時代にかけての遺物を含む遺物包含層が確認されています。工事計画地に埋蔵文化財が遺存する可能性は極めて高いと予想されたため、発掘調査を実施することになりました。

### 調査の成果

調査区の南東部および北西部において地山の高まりが検出されたほかは全域が谷の落ち込み部となっていることが確認されました。キャンパス東方にそびえる**姫山から西に延びる丘陵地形の谷筋が当該地において北東－南西方向に伸びていることが判明**しました。検出した北西－南東谷肩部の距離は約15m、谷の深度は最深部で約1.3mを測ります。

谷の埋積状況は極めて複雑で、谷底堆積は水流堆積であったことを示しています。谷埋土より出土した遺物の**80%は弥生時代のもの**ですが、いずれの資料も摩滅・摩耗が少なく、谷の上流からはるばる流れてきたとは考えられません。おそらく、図書館北方の丘陵部（遺跡保存地区）に弥生時代集落が存在し、弥生人たちが**不要になった道具（こわれた土器や石器など）を谷に投げ捨てたもの**と想像されます。また、古墳時代以降の資料も相当数存在するため、**弥生時代以降も集落が存在した**ことが推測されます。

この谷筋は、大雨による濁流等で削平・再堆積を繰り返しているようで、最下層からは古墳時代や中世の遺物が出土しています。そのような状況下でも、調査区内では南から徐々に谷の埋積が進行し、室町時代には調査区北部のみ谷地形となっていたことが出土遺物から推定されます。ひいてはこの谷筋が、現在でも**図書館北側に残る水路**として遺存しているものと考えられます。

土器以外の遺物としては、吉田遺跡初出土となる弥生時代の**完形大型石庖丁**や磨製石斧、叩石など弥生時代の石器類が、木製品としては管状製品、木錘、板材などが多量に出土しています。

また、特筆すべき遺物として、谷埋土上部から**銅製帯飾り「丸鞆（まるとも）」**が裏金具付きで1点出土しています。吉田の地に古代律令官人が存在していたことを示すものですが、裏金具付き帯飾りは本県では見島ジーコンボ古墳群以外では確認されておらず、極めて貴重な資料と言えます。